

大型クラゲ分布調査

(有害生物出現調査並びに有害生物出現情報収集・解析及び情報提供委託事業)

曾田一志・沖野晃

1. 大型クラゲ沖合域分布調査

(1) 調査方法

平成 29 年 9 月 4 日～9 月 6 日に、調査船「島根丸」により LC ネット（網口の幅×高さが 10m×10m）を用いてエチゼンクラゲの調査を行った。また、ブリッジから目視調査を行った。

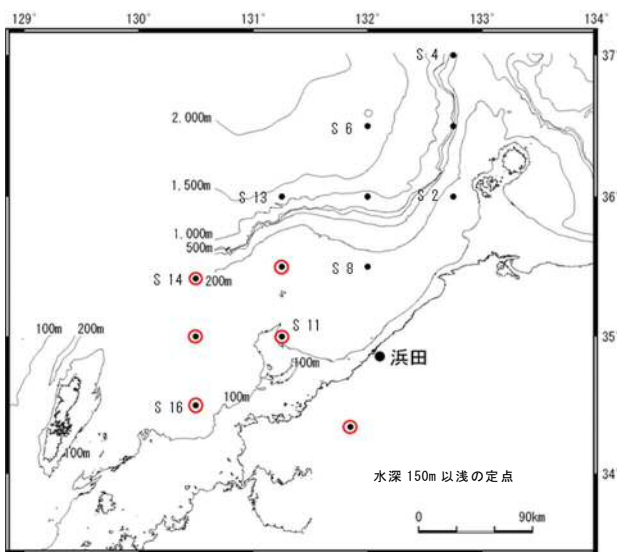


図 1 洋上分布調査定点（丸は水深 150m 以浅）

調査定点は図 1 のとおりである。

調査方法は LC ネットを水深 50m まで（水深が 150m よりも浅い場合は海底から 20m 上まで）沈め、1 分間斜め曳きをする。揚網はワープの巻き上げ速度を毎秒 0.3m、船速を 2～2.5 ノットで行う。

(2) 結果

LC ネットでは採集されず、目視調査では St.12 で 1 個体確認された（付表 1）。

2. 洋上目視調査

(1) 調査方法

①調査船「島根丸」

船上から目視による観察を 7 月に 1 回実施した。調査定点は図 2 に示すとおりである。計数は、各定点から 2 マイルの距離を航走する間、船橋上両舷から目視されたエチゼンク

ラゲを大（傘径 100cm 以上）、中（傘径 50～100cm 未満）小（傘径 50cm 未満）のサイズ別に行った。

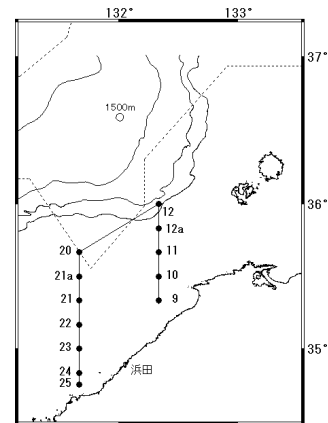


図 2 島根丸洋上目視調査定点

また、漁業取締船「せいふう」により航行中に沿岸域のクラゲ来遊状況の調査を行った。

(2) 結果

大型クラゲは確認できなかった（付表 2）。

3. 陸上調査

(1) 調査方法

平成 29 年 7 月～12 月の間、各 JF しまねへ直接、もしくは各水産事務所を介して電話により情報を収集した。

(2) 結果

平成 29 年度における大型クラゲの確認数は殆ど無く、漁業被害が出ることはなかった（付表 3）。

4. 研究成果

調査結果は JAFIC が実施している大型クラゲ出現情報にデータとして提供した。また、大型クラゲ情報として FAX とホームページ上で情報提供を行なった。